

町長の  
まち・ひと・しごと  
魅力発信

～ 事業所訪問 vol.7 ～

## 「株式会社 リテラ」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。

### 町長の見て・聞いて・話して

第7回の事業所訪問は、7月30日に両神薄の株式会社リテラを訪問し、秋山博之社長にお話を伺いました。

株式会社リテラは、昭和52年(1977年)所沢市に自動車部品を製造する「旭特殊工機」として創業し、昭和63年(1988年)に現小鹿野町両神薄に本社を移転されました。平成5年(1993年)に社名を「リテラ」に改めて、昨年創業40周年を迎えられました。社名の「リテラ」は、「リサイクル」と「地球・大地を意味するラテン語の「テラ」が由来で、環境保全を基本に地球再活性・大地再活性を会社理念として、地球環境を考えた素材・製品・製法と独自の技術を追求して取り組んでいるとのことでした。

当町には本社・両神工場があり、約70名の社員が勤務しています。また、秩父市みどりが丘の工業団地には、秩父工場と秩父第二工場の二つの事業所があり、会社全社員数は282名で、その95%は秩父管内から通勤している地域密着型の企業です。

案内していただいた両神工場は、主に自動車のエンジン部分・ミッション部分・ステアリング部分のアルミダイカスト製品を製造しています。



空調設備が整備された作業ライン

なかでも、オートマチックトランスミッション(A/T)の一部に応用されているトルクコンバータ部品は、1か月に約6万個を製造しているとのことでした。工場内は、アルミニウム

#### 会社概要

代表者 代表取締役社長 秋山博之

従業員数 282名

創業 1977年3月

所在地 本社:小鹿野町両神薄2703

秩父工場:秩父市みどりが丘9

秩父第二工場:秩父市みどりが丘29-2

電話 本社:0494-79-1300



金型の説明を受ける森町長

を約700℃まで加熱し、溶解したアルミを金型に流し込み、250t～850tの圧力をかけて成型する大型機械が稼働しています。熱風も感じますが、大型扇風機や冷房設備も設置されており、作業のしやすい環境づくりに創意工夫が施されていました。

また、社内の製造過程は、情報管理化がされている為、製造量や不良品の管理など、すべてがコンピューターのモニターやスマートフォンで確認することができます。

モノ作りにおいては、40年に亘り培ってきた特異な技術で、ダイカスト製品の残ガス量を極限まで少なくし、高強度なアルミ製品を製造することが可能で、業界でもトップクラスの技術を有する企業であると感じました。

#### わが社の主力製品

製造している製品の大半が乗用自動車関連の部品で、売り上げの76%を占めております。その他にも建設機械や商用車(トラック)関連の部品を製造しています。

工場には、14台のスクイズダイカストマシンを保有しており、特殊なスクイズダイカスト工法で製造する製品は、一般のダイカスト工法の残ガス量(炭)が100g中に25cc程度とされているところ、当社の製品は100g中1cc以下で仕上がる為、熱処理や溶接が可能となり、高圧部品、強度部品に使用することができる高品質なダイカスト製品として信頼を得ています。

#### ここに自信あり

2007年には、高度なモノ作り技術が認められ、経済産業省の「元気なモノ作り中小企業300社」に選定されました。モノ作りを通じ地域経済の発展に貢献し、新規分野においても、電気自動車部品の開発や海外部品メーカーと技術提携を結び世界有数のスクイズダイカストメーカーとして、鋭意努力をしております。



写真左から、秋山社長・森町長